

その他：小学校サブコース演習

## 小学校サブコース演習(教育心理学)における「予備調査」体験からの気づき・学び

大学院（教育実践高度化専攻）・橋本 巖

### 1. 本授業の位置づけと目的

「小学校サブコース演習」（以下、小サブ演習と略記）は、教育学部初等教育コース・小学校サブコース開設の授業であり、令和4年度（2022年度）の受講者は2名だった。履修の手引には、「3年次後学期に開講される必修科目です。卒業研究指導教員（以下、指導教員と略記）のもとで、卒業研究に必要な知識や技能等を演習形式で学びます」とある。筆者の本授業のシラバス（時間割番号227015）では、上記に加えて「実践的な関心・問題意識を持ち研究に携わることの面白さ、自己と社会にとっての有益さ、責任（倫理）等について自覚的に学び、資質・素養を身につける」ことを目指している。教育心理学領域での研究に関心のある学生には、素地を培うため、「教育臨床科目」にあたる「子どもの心理学的理解」（4教員の分野別講義：2年次前期）と「教育心理学演習」（心理学研究法の基礎演習：2年次後期）の履修を勧めている。

### 2. 授業の状況と、「予備調査体験」導入による改善の試み

小学校サブコース学生は3年次から卒研指導教員のゼミに所属するが、3年前期及び4年前期には卒業研究に関する正課必修科目はない。筆者はゼミ学生と相談の上、3年前期には2週間に1回（プレ小サブ演習）、後期の小サブ演習では毎週、ゼミの同学年学生が集合する時間を設け、原則的に毎回各自が関心のあるテーマについて論文等を紹介し、関連する生活体験を議論する授業を行ってきた。前期後期を通して、「当初のテーマは変化するもの」、「自分の関心を言語化する努力、互いに語り合うことの大切さ」などを繰り返し伝えつつ、テーマ（キーワード）の具体化と絞り込みを狙いつつ、心理学論文の検索法・読み方や統計などの解説も織り込んだ。前年度までは、3年次後期の本来の小サ

ブ演習でも、「まだ卒論本番ではない」意識の下、原則的には前期同様、文献学習が主だったが、4年次になって実際の調査・面接という机上ではない研究活動への着手が容易でなく、またデータ収集後に分析・考察するために調査するという「流れ・ステップ」や所要時間が殆ど見積もれていない（だから「焦らない」と痛感させられることがあった。

そこで、本年度後期の小サブ演習では、不十分・不明確でも現時点の各自のテーマ理解に基づいて「予備調査」を実施し、まとめの文章まで書く流れを体験してもらうことにした。研究者としての当事者性を持ち、主体的に判断して進める力の必要性を実感して欲しかった。筆者の指導した過年度の卒論の質問紙冊子等を大いに参考にして、自由記述式も含んだ質問紙を作成し、調査参加者は各自の仲間関係に依頼して、Aが20名、Bが15名からデータを得て、エクセルで記述統計集計を行って学期末にレポートを作成した。

### 3. 授業評価アンケートの結果

2名のゼミ生に評定と自由記述による授業評価アンケートを実施した。その結果次の3点の知見を得た。省察し4年次の卒研指導に反映したい：(1) 3つの到達目標（知識、技能、主体的取り組み）のうち、技能面について2名とも手応えを報告したが、知識及び主体性は個人差があった。(2) 本授業での質問紙作成やデータ分析経験が、教育心理学演習や数学入門（データサイエンス）との関連を感じさせられた。(3) 「予備調査体験」からの気づき：①質問紙フェイスシート作成に研究主旨や倫理的配慮等の多様な考慮が必要なことへの驚き、②取り組み方の基礎を知れたと同時に、テーマや視点を絞り切れず、質問紙で必要な回答がうまく引き出せない「失敗」を本番前の現段階で経験できたこと。●以上、予備調査体験を主体的に受けとめ、卒研への展望につなぐ成果を得たと見なせよう。